

●令和4年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「チャンスくれた税金」

【学校名・学年】武庫川女子大学附属中学校 3年

【氏名】河合 さくら

私が十二歳の頃、大好きだった祖父が病気で息を引き取りました。祖父はがんで今までに何回も入院をくり返していました。手術もくり返し、なんとか元気な状態を保っていました。

ある日、小学校から帰ると必ずいる母がおらず私は「なにかあったのかな？」と思い宿題の用意をしていました。しばらくして父が帰ってきてこう言いました。「おじいちゃんが危ない状態なんだ」と。私の頭はパニックで真っ白になり、何も考えられず、その場で立ちつくしたままでした。祖父がいる病室に行ったとき、まるで医療ドラマのような場所に驚きました。心拍数の「ピッ・ピッ」という音。その機械の前には眠っている祖父がいました。弱っている祖父の姿を見て私は今にも泣きたい気持ちでしたが、せめて祖父の前では明るい私を見せたくてずっと笑顔でしゃべりかけていました。

その三日後、祖父を訪ねに母と行きました。先に来ていた祖母が「ほら、さくらが来たよ」と祖父に語りかけた時、祖父の目がかすかに開き私を見ました。ほとんど聞き取れない声で私が聞こえたのは「さくら受験合格おめでとう」の言葉。「ありがとう」と私が返すとかすかに祖父がほほえみました。これが私と祖父の最後の会話でした。その次の日、祖父は七十四年の幕を閉じました。

何回も入院をくり返し、救急車で運ばれた祖父。お金はどのくらいかかるの？と疑問に思い調べてみました。税金によって救急車が無料で呼べていることを初めて知りました。他のある国では、十四から十六万円ほど搬送するのにお金がかかることが分かりました。しかし、このお金はたった一度の搬送にかかる料金で、距離やその際の処置により追加でお金がかかるので、日本のようにすぐに病院まで行けず手遅れという例もあります。もし救急車が呼べていなかったら祖父には会えなかったかもしれないと考えるとゾッとします。これは税金を払っている人々のおかげで私は立ち会うことができました。救急車や入院ができてるのは税金、払う人々のおかげだと私は思います。

このご時世、税金の額があがってきているのは事実です。でもその税金が今、だれかのためになっています。そう考えると、税金を払うという行為は人の役に立つ、役に立てるという意味にもなると思います。私は祖父と立ち会えるという機会を税金によって助けられました。十二歳の私に与えられたチャンスを恩返しできるように十五歳の今、税金を理解し、だれかのために向きあえるようにしていきたいです。